

高石市立幼稚園再編等検討委員会

(北口次長)

事務局の北口でございます。それでは、ただ今より高石市立幼稚園再編等検討委員会を開催させていただきます。委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中ご出席賜りまして誠にありがとうございます。

本日の案件につきましては、既にお渡ししております資料のとおりでございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。なお本日の会議につきましては、高石市立幼稚園再編等検討委員会設置要綱第4条ただし書きの規定に基づきまして各委員の任期を延長して開催するものでございますので、重ねてよろしくお願い申し上げます。

それでは、同要綱第6条第2項の規定によりまして、会議の議長は委員長をもって充てるということになってございますので、これよりこの進行を大方委員長にお願いいたしたく思います。よろしくお願い致します。

(大方委員長)

それでは、こちらの方で進めさせていただきます。なんか懐かしいというか変な感じでございますけど、今あの事務局の方が言ってくださったように、なんか新しくこの検討委員会をするというよりも、任期が一旦あれで終わってる訳ですけども、まあ特別の事情がある場合においてということで、任期が終わっている予定なんだけども、まあ任期が自動的に延びるといふ風なことで、今日の会議があるという風にご理解を頂けたらと思います。

まあ事前に皆さん何か聞かれてると思いますけど、まあ今日はあたしたちがいろいろ決めてきた内容に一部変更が生じたということで、特別な事情が生じたということでございますので、まあその内容について事務局からまずご説明頂きたいと思います。

(北口次長)

それでは、市立幼稚園の再編につきまして、ご説明申し上げたいと思います。座って説明してよろしいですか。

(大方委員長)

はい、お願いいたします。

(北口次長)

懸案となっております高石中学校区におけます市立幼稚園の再編についてでございますが、昨年8月の2日に本検討委員会から提出されました提言を踏まえまして高石市教育委員会では高石中学校におけます市立幼稚園の再編につきましては、本検討委員

会におけます総合評価の低かった幼稚園を廃園するということを基本といたしますが、廃園対象幼稚園及び廃園時期の決定につきましては、地域におけます市立幼稚園に対するニーズでありますとか、小学校との教育の連携を考慮した上で、また国の子ども子育て新システムの動向や同システムにかかります新法施行内容を見極めた上で、決定することといたしておりました。この決定事項につきましては、実際に廃園対象となる幼稚園の決定にあたりましては、評価結果のみに囚われることなく、子ども子育て新システムの動向など評価結果以外の要素を総合的に勘案することによりまして、廃園対象幼稚園が決定されるべきであるということが示唆されたものであると認識してございます。また先程申し上げました子ども子育て新システムでございますけれども、市町村において策定することになっております子ども子育て支援事業計画に幼児期の学校教育や保育、子ども子育て支援事業に係ります需要量の見込み及びその提供体制の確保の内容、及びその実施時期が定められることになる為、当該事業計画の策定に合わせまして再編を決定するものであると考えておりましたが、当該新システムにつきましては、関連三法案が去る3月30日に国会に提出されまして5月の10日から法案の審議が始まったようでございますが、再編に影響すると考えられます子ども子育て支援事業計画の策定期間につきましては、法案の施行日が消費税法等の一部を改正する法律との関連で平成27年10月1日から平成28年4月1日までの間において政令で定める日から施行されるということになってございまして当初平成25年度の本格実施を目指しておりました計画からは大幅に遅れたものという風になってございます。

一方、幼稚園の園舎の耐震化についてでございますが、耐震改修促進法に基づきます高石市の耐震改修促進計画によりまして平成27年度までに耐震化を完了させるということを目指しておりまして、また今後30年以内に発生する確率が60%以上と言われております南海トラフを震源とする巨大地震いわゆる東海・東南海地震でございますけれども、そういった地震や直下型の上町断層帯を震源とします地震に対します早急な対策としまして耐震性能の1次診断でございますが、耐震性の低かった市立幼稚園園舎の耐震化が急務となっているというような状況でございます。それで教育委員会の方といたしましては、以上の点を踏まえまして新システムの法案の成立及び施行を待つことなく喫緊の課題であります幼稚園園舎の耐震化を優先させるためには、再編を進めて行かなければならないという風に考えておるところでございます。

そこで、再編を進めるにあたりましては、市立幼稚園に対するニーズの時点修正を実施するとともに小学校との連携につきましても小学校との位置関係という物理的な評価だけに留まらず、異校種等との連携取組状況も考慮いたしまして、また新たに評価検討が必要と考えられるような項目につきましても改めて評価項目に加えることによりまして再評価を実施しまして廃園対象幼稚園の決定をしまいたいと考えたところでございます。

お手元にお配りしてあります資料10ページでございますが、ちょっとご覧頂きたいと思

いますが、その上の表が昨年検討委員会で評価して頂いた結果の表でございます。下の表が元あった項目に加えて新たに 4 項目入れてる表でございます。再評価の追加項目としましてはまず 1 点目としまして市立幼稚園に対するニーズを評価する一環としまして過去3年間のそれぞれの幼稚園の園児数の推移を評価しております。次に2点目といたしまして市立幼稚園についても政策的な誘導によりまして総合こども園への移行が新システムによって促進されるというのが予想されることから市立幼稚園の拡張性というものを保育室の保有数によりまして評価いたしております。次に3点目といたしまして各幼稚園の通園区域内におけます開発の状況といたしまして住宅の開発戸数を調査しております。これは開発指導要綱に基づきます開発協議のあった件数ということで計上させて頂いております。こういった住宅の開発によりまして人が流入してくるといことと、それに伴う幼児人口の増加が予測されますのでこれも市立幼稚園に対するニーズに影響する項目であるという風に考えてございます。最後に4点目でございますが、財政的な面から園舎の耐震補強による費用対効果を見るために耐震補強工事に係ります概算工事費の金額を比較検討、比較評価いたしております。なお、異校種等との教育的連携についてでございますが資料の 11 ページになりますがこちらの方をみて頂きたいと思っております。項目といたしまして学力向上等への取り組みを始めまして子ども達や教職員間の交流及び保護者や地域との連携の取り組み等を調査いたしております。その結果羽衣幼稚園、北幼稚園ともに同じ程度の取り組みがなされているということでどちらも差異がないという状況になってございます。今申し上げました新たな評価項目を加えました総合的な評価の結果についてでございますが、結果につきましては 10 ページの資料のとおりでございます。元々100点満点で評価して頂いていたものを 140点満点で 4 項目を加えさせて頂いて評価した結果、羽衣幼稚園が 85 ポイント、北幼稚園 95 ポイントという結果になってございます。従いまして結論といたしましては、再編が必要な市立幼稚園は評価結果が低かった羽衣幼稚園を北幼稚園に統合するという形で再編してまいりたいという風に考えてございます。なお、再編のスケジュールについてでございますが、今年の 10 月に予定しております平成 25 年度の園児の募集につきましては、羽衣幼稚園の 4 歳児の募集はこれを行わずに平成 25 年度末、平成 26 年 3 月 31 日をもって廃園することにいたしたいという風に考えてございます。以上のとおり市立幼稚園の再編につきまして教育委員会事務局としての考え方を本検討委員会にご報告申し上げますので、どうかよろしくご理解頂きますようお願い申し上げます。以上でございます。

(大方委員長)

はい、ありがとうございました。まず、どうぞ忌憚なくどんどん質問してください。

(菊野副委員長)

質問。

(大方委員長)

はい、どうぞ。

(菊野副委員長)

この保育室の保有数とありますよね。4室と6室で、それぞれが5点、10点なってますよね。どの辺で5になって、どの辺で10になるって、ちょっと説明、忘れたんですけど。

(北口次長)

基準を8ページに書かせて頂いてるんですけども。

(大方委員長)

拡張性があるか無いかでしょう。

(菊野副委員長)

拡張性があるか低いのか。

(北口次長)

はい、将来的に拡張性があるか、低いかというところで、10点と5点という風に振り分けさせて頂いております。

(菊野福委員長)

保育室の保有数、あんまり4と6やったら変わらないかなと思って。それでも5、10って点いてるのは。

(北口次長)

総合こども園ということから、政策的に誘導されるということなんですけども、まあそういう方向に進んだとしましたら、当然3歳児保育という必要性も出てくるかなと思うんですけども、まあ今の4室だけであればですね、まあ3歳児保育をやっていくっていうようなことについても、若干無理があるかなという風に考えてございまして、そういったところに対応する為にも、保育室の保有数が多い方が対応がしやすいだろうということで拡張性があるというようなことで評価させて頂きました。

(菊野副委員長)

4 と 6 がそんな倍くらい点数が違うのかっていう風に言われへんかなってちょっと思っただけで。例えばこれが 17 と 27 やったら 5 と 10 になると思う。4 と 6 でこんなに差が開くって説明がちょっとわかりにくいなと思って。もっと細かく説明があった方が後々突っ込まれたときに説明しづらいん違うかなと思ったもんで。例えば 5 以上やったら 10 になるとか。

(大方委員長)

基準がこの二つしかないんで。元々が二択なんで。

(菊野副委員長)

それがちょっと疑問点かなって思ったんですけどもね。

(西條委員)

よろしいですか。

(大方委員長)

はい、どうぞ。

(西條委員)

前の時はね、学校の中で基準を決めて点数をつけてたということやったと思うんです。そういう中のとこらへんでこう決めてはった。で、今回は二園の基準にしてる訳ですね。二園を基準にしてというところで、今副委員長がおっしゃられたように二園を基準にしてる中やからね、5 と 10 という差をつけざるを得ないようなことあったけど、これがひょっとしたら前の基準やったらここは 10、10 になってたかもしれんとかいうとこらへんのね、ちょっとこうきちっと説明できるとこらへんが必要かなというところへんのは思ったりもします。ただ、僕前回の時にも言わしてもろたんですけどもね、あの羽衣が 75 で北が 55 かな、これは僕の実際の感覚よりもね点数が開き過ぎててなんかこうどうかなというところへんは、まあ感覚的に持ってたんでね。ま、結果としてそんなにね、僕はまあ思わへんのですけども、この今おっしゃられた点数の付け方自体ちょっと気になるゆうたら気になるとこらへんは、ありますね。

(大方委員長)

私にあんまり喋ったらいかんねんけど、前の時も結局実際に点が開いてるところはどこかって言ったら、子どもの就園率ですよ。就園率が 30.9 と 24.0 でここで 10 点の差があって、その一つが小学校との位置関係で、羽衣は隣ということで 15 になり、片方は隣じゃないということで 5 になり、これも 25 点なんで先生おっしゃるように

実際には 20 点の差というほどの感じではないかもしれない。実際には就園率と隣に隣接ということを見れば、当然そこは明らかに違いがあったということだと思っただけでも。逆に今回、私今日これを開くにあたって何かがあったからといって 1 回決めたことをクルクル変えるということはいけないので、余程特別な事情に該当するという根拠が無いといけないと思っただけでも、要は開発状況の中で前は減ってると思っただけでも、その開発された 238 軒ですかね、いうマンションが建つとかなんか知りませんが、新しくここに子どもが増えるであろうという予測が前には分らなかった世帯数が出たということによる結果的な増加傾向ということがあり、そのことによって部屋も要るやろうし、ということのもう一回検討会を中でやらなきゃいけないというか、そういうご報告を私達は承らなければいけないという事態になったのかなという風に、この表を読み取ってるんですけども、そういうことなんでございますでしょうか。

(北口次長)

おっしゃられるとおりでございます、昨年 8 月 2 日に提言書を頂戴しましたけども、その時に比較検討し直した項目もございましたし、新たに実際の再編する中でもっとその視野を広げてと言いますかそういう形で評価すべきだと考えましたので、そういった前は地域の幼稚園子どもさんのニーズしか調べてなかったんですけども、それ以外の要素もやはり検討に含まれるべきやろという風に考えましたので、こういう項目を加えさせて頂きました。

(大方委員長)

だから、まあどっちかって言えば新しいマンションができるって、子どもが増えるってまあ突発的な事項と考えた方が良くて、まあ普通は一回決めた事をひっくり返すっていうのはそれは常態化したら望ましいことではないので、その辺の今後いろんなところでご説明して頂く時に、またいつでも会議っていうのはやればまた変わるねんっていうような前例にならないような形をね、やっぱり取って頂かないと一所懸命真摯にもここで議論してきたことが台無しになってしまい、今特に保護者の方もおられるので、まあその辺が明らかにただこれ数字で見ると前の時は 30.9%で 24.0%であったものが本当に 238 軒が引っ越してこられるのかどうか知りませんが、子どもが多分増えるであろうということは、その時になってやっぱりあっち置いとけば良かったというのはまあナンセンスな話なんで。まあ必要性はあるのかなという風に思ってるんですけども。まあ片方の方は小学校とのことと言えば本当にまあ当然同じ敷地内にあるということと、もう一つの北の方もそんなに遠くはなかったですよ。真隣という条件とは違うけれどもそんなに遠くはないということだったんですかね。その辺も前回の基準に大きな意味を持っていたので。すみません、私が喋ったらいかんですが、そういうことでよろしい

ですか。

(北口次長)

そのとおりです。

(大方委員長)

質問というか確認というか。私が理解してるのが正しいかどうか伺いたかったんです。

(北口次長)

委員長おっしゃるとおりでございます、位置関係につきましても北幼稚園は東羽衣小学校の近くにあるんですけども、直線距離にしましたら 50m程度で歩いていっても 100m程度というところでございますので、そういう意味ではそれなりの連携も従前のとおりさせていただきます。よろしく申し上げます。

(大方委員長)

どうぞ、まだご質問されてない方。保護者も含めて。

(中谷委員)

あの、質問ていうか幼児人口に対する就園率のことに拘るんですけども、やっぱり羽衣は 24 年度に下がったとはいえ北幼稚園よりもまだパーセントが高いんですよ。ていうのは、やっぱり公立幼稚園がいつかはどの幼稚園が廃園になるかわからないって噂がすごく飛び交ってまして、で羽衣か北になるかもしれないっていうのがもう保護者の中で飛び交ってるんですね。やっぱり。加茂幼稚園でもそんな風に言われる保護者も。別に私達は言ったつもりはないんですけども。ですので、そういう中でもやっぱり羽衣幼稚園は 27.6%の就園率っていうことから見たら、まあやっぱり公立幼稚園を大切に思ったださる保護者が多いということですし、ここの新たな評価項目のこう数字だけ見れば 69 と 238 で断然数は多いんですけども、この北幼稚園のこの人数が全部来てくれるとは限らない。これ本当に予想。何パーセントの方が来てくれるかわからないんで、数字でこんな風に見せて頂くとああと思いますけれども、今までの実績とかていうのを見てみるとやっぱり羽衣幼稚園ていうのは保護者にとっては大切に思ったださってる幼稚園ではないかなと思いますので、まあその辺どんな風になるのかなと思いますね。

(田野部長)

私も廃園するということ。中学校区にそれぞれ 1 園ということで決めましたので、非常に親御さんの方にもそういう今先生が言われたようなですねことが原因ですね、

少し迷ってられる若しくはそういうことがあるかもしれません。羽衣幼稚園と北幼稚園同じ条件かなと私もそれは思ってましてですね、その分で 2 園を比較する上ではですね、やはり今後のですね就園の可能性と、これ 3 年間の開発指導要綱というマンションであったりですね賃貸住宅であったり一戸建てなんですけども。これやはり開発されますとやはり一番働き盛りの方がですね、そこにお住みになられて幼稚園に来られると、まあ通園ということと言えますとですね、先程北口次長が言ったんですけども 800m の円からしますと少し変わるだけなんですけど、やはりこういう開発がですねお子さんを新たに就園する可能性が高いという、2 園にだけにですね言えることかなとそういう風に認識しておりますとですね、決してそれが全てそちらに行って頂くということではないんですが、昨年出して頂いた総合評価を時点修正させて頂いたと。それに加えて新たに何点か私どもも見させて頂いた。そういうことで今回市の方がですね一つの方針を決めたということでございますので、ご理解お願いしたいなと思っております。

(大方委員長)

質問ありませんか。

(ト田委員)

よろしいですか。おそらくまあ重要なのは、公立幼稚園として残していく可能性がより高い方のところはどこなのかということになってくると思うんです。で、かなり全国的にも民営化という流れは進んでおりますし、ただその中で公立がすべきことというのは、おそらく確実にあってそこを維持するためにもより公立幼稚園が充実していくことが大事だという風に考えた時に今回の方針が出てきたんじゃないかなという風に思っているところがあるんです。でそういう点から言いますとこれ計画の中で現在の開発の状況で 69 と 238 ですけど、これが 5 年 10 年ということ先を見た時に開発の可能性とかまあ余地というかがより高いのがどちらなのかということってというのが一つ判断の基準になってくるんじゃないかなということが一つと。あと先程副委員長の方からあった保育室の保有数ということの拡張性というところが、ここだけ本当に比較の問題になってしまっていると思うんです。2 園の上、他の項目がこの 2 園の比較という形では考えてなかったんで、ここに対してはある一定の説明が要るんじゃないかなと思うんです。で、そう考えた時に総合こども園にしていく時に例えばどういう形を考えておられるのかということなんです。まだ今考えておられる途中だと思うんですが、例えばですけど、私が知ってる認定こども園、私学では大阪でかなり最初の時期に取ったところなんですけど、そこは今何が課題になっているかという預かり保育の場所が課題になっているんです。つまり、預かり保育をするための場所が、普段の通常の保育室と同じところだと幼稚園の単位で暮らしている子ども達にとっては、次のそこの担任の先生達にとっては次の日の保育の準備をしていくということが必要となってくると。そこの部屋で子ど

も達が残っているとなると、まあ保育の流れというのがうまく、仕事の流れがいかないということで、別の部屋で長時間の保育をしていると。その別の部屋の確保というのがかなり難しいということがあるんです。例えば、総合こども園に3,4,5歳でということと幼稚園を基盤としたそこを拡張していく形でやっていくんだという風に考えられる場合であれば、預かり保育の場所ってというのがある程度豊かにないとうまくいかないということが起こってくると思います。それをどちらのどういう形のものを指向されていくのか、本当に長時間の保育所とこう合体する中でやっていくんだというような形で考えておられるのか、まあその辺りの方向性によってこの4と6というのが、比較の上での評価になるのかそれとも根拠性を持ったものになるのかの違いが出てくるのかなという風には思うんで、その辺りちょっとまた方針を、今議論の途中だと思うんですけど、考えていかれるというのが必要なのかなと思います。

(菊野副委員長)

全部1、1、1、1ですよね。この重み付けが。僕の中では開発の状況というのがすごく重みが深いのかなと。例えば5くらいあってね。それからこの保有数二つしか差が無かったってここが将来のこと考えるからここを同じように1,1っていくんじゃなくてここは3とかね。得点の最大値はこっちの方が重み大きいんじゃないかな。全部1,1でやっていくことはね。ある意味で妥当な数値になってるのかなって思うんで。その辺もうちょっとこの辺例えば最初の推移の方は例えば1と、その次保育室があってこれが1でなんかそういう比率を変えていった方が。それ違うのかなって。重みが違いますよね。

(大方委員長)

やっぱりこう今ト田先生おっしゃった質問にもなりますけれども、やっぱりやるからにはプラスの方向で良い結果を残すということが最大の市民に対する結果であって、私達はその為に苦労している訳ですから、で、それが子ども達の為であり、将来の公立幼稚園の存続に繋がっていくと、その為に今再編計画があってということが議論されてきたかというのがやっぱり大事ですし、そうじゃないと保護者の方も来て頂いて非常に園長先生も含めて、ご心労だけかけてしまって、やっぱりあの時反対すれが良かったということでは良くなって、やっぱりそういうビジョンというかすごく大事なことですよね。だから3歳児にしてもそうだし、預かりにしてもそうだし、やっぱり幼稚園としてやるからには単なる長時間じゃなくて、今ト田先生が言ってくださったように昼間の保育室とは違う環境、空間を作ろうと思えば、別の部屋でなかったら難しいんですよ。そこはちょっと憩いの部屋であったり、ちょっとほっとするような空間を常備したり、気になる子やしんどい子は昼間の保育の中でもちょっとそこへ行ってほっとできるようなまあスペースの為に部屋がやっぱりあると、必要であるといった時にどう考

えてもちょっとやっぱり部屋数が少ないところより多い方を残し、さらにそこに耐震のことも含めてお金をかけていくと、これからどんどん予算は無くなっていく訳ですから、限られた予算をどこにお金を入れていくかといった時にやっぱり結果としてどこを選ぶかという議論になってきてる結果やと思うので、そこら辺はもうちょっと教育委員会として考えておいて頂く方が保護者に説明する場合でも根拠になっていくと思いますし、数だけではない大きな意味が出てくると思います。なかなか部屋作るいうても空間や設備が無かったら作れない訳です。全部建て直すならともかく残して今あるものを活用する訳ですから、その時に4と6というたら二つ部屋があるかどうかというのはやっぱり大きな違いには結果なっている、ただ部屋があるだけではね、やっぱり説明にはなりにくい。この耐震補強概算工事費っていうのは北の方が少なくて済むという風に読み取ったらいい訳ですか。てことは逆に言って羽衣の方が補強しなきゃいけない要素が多いという意味ですかね。

(北口次長)

はい、単純に面積の違いがございまして、羽衣幼稚園の方は管理教室棟という1棟の中に管理教室や保育室があるんですけども、北幼稚園の場合は管理教室と保育室が別々にありまして、保育棟の方は平成6年の建築で新耐震基準になってございますので、そちらの棟は耐震が必要ないということです。

(大方委員長)

だから。何か言っていましたね。

(北口次長)

はい、整備すべき面積が変わってきますので、これだけの差が出てきたということでございます。

(西條委員)

よろしいですか。

(大方委員長)

はい、お願いいたします。

(西條委員)

さっきから特定のところに拘るみたいな感じなんですけども、まず幼児人口に対する就園率の変化いう大変大きなものがある、いろんな項目があって変わったというのは分かるんです。この2園でね、そしたらどっちかということで今度比べていったと、こ

こまでも理解できるんです。その 2 園で比べていくときのある部分までは前の点数でいって新しいのが次の点数でいってるといところへんがね、僕ちょっと気になるんは、なぜかというたとえば適正配置、小学校との位置関係、前の基準でいったらね、5 と 15 なんです。そやけど 2 園だけのね基準でいくとね、多分ね 5 と 10 ぐらいの感じで僕の感覚ではなってしまう。その辺のね整合性みたいなんがね、もちろんこれでもいいんやけども、ちょっとこう気になるというのんは。今度は 2 園で比べてると。である部分は前の基準の得点でいってて、残りは 5 と 10 の得点でいってると。その総合点で比べてるといところへんがね、説明がね、きちっとできていかへんかったら弱いんかなと。で 2 園で比べていったらもう 5 と 10 だけで比べていったらもういいしといところへんのがちょっとあってね。これでももちろん説明はきつといけると思うんやけども、ちょっとそこの部分だけがね気になると言えば気になるんです。

(大方委員長)

その通りですね。

(北口次長)

事務局としましては、去年評価して頂きました基準というのはできるだけそのまま、尊重したいという思いがございましたので、前の基準のままで点数をそのまま時点修正だけさせてもらった分で、若干比率が変わりますけどもそれ以外の部分については前のままでとさせて頂きました。新たに再編にあたって必要であろうと考えられる将来的な場合ですとか財政的なことも含めて新たな項目を設けさせて頂いたということがございますので、よろしく申し上げます。

(田野部長)

先生のおっしゃられたとおり距離的なものでいきますとですね、羽衣が真横にありますので、ただ実際には内容、別紙ですとね連携の取られてる内容を指導課の方で纏めて頂きまして、実際ここは点数を変えないところなんですけど、昨年度こういう総合評価されたところを、少し一面的に見てましたものを総合的に見させて頂いたもので、それは決して点数の中で変えずに私どもの資料として付けさせて頂いたと。こういうことでご理解お願いしたいなと思っております。ただ、全ての面で 2 園だけで見ると昨年度総合的に見たのとでは、少し差異があるのかなということは。私もこの 4 月に来ましていろんなものを見せてもらったんですけども非常にそういうことに視点がいくのかなと思っております。

(大方委員長)

今の意見はまたいろんなところでご説明される時に今の意見、同じように思われる方

おそらくいらっしゃると思いますので、参考にして頂きたい。

他にご質問ございますか。

あと私から質問ですけど、羽衣さんの方は隣が小学校ですよ。北の方がっていうことになった時にこの羽衣はなくなるという時にその跡地利用て言いますかね、それが広い空間としてなんというか避難所になっていくとか、なんらかの保証された空間になっていくということの方が、保護者への説明する時とか一般の方々になんかこれまた売って、違うのん建つんちゃうのというようなね、危惧を小学校の方々に与えてもよろしくないですし、元々そこの羽衣幼稚園にいらっしゃる方々も自分たちの幼稚園なくなって何が建つみたいなのがそれこそ勝手な評判になってはいけないと思うので、そのところは公共的に活用されていくという風に。

(北口次長)

そうですね。われわれとしても、そういう風な活用方法を望んでおりますけども、基本的には平成 25 年度の末に幼稚園が廃園された後は教育財産から普通財産に切り替わりまして、その普通財産に切り替えた時点で公有財産の有効利用検討委員会というのが庁内にごございますので、そういった中でこういった形で利用していくのかというのが決まってくるのかなという風に考えてございます。

(大方委員長)

まあ、そういうような質問も聞かれる可能性もあるので、その辺も含めてまた市としてお考え頂きたいと思います。

(中谷委員)

質問していいですか。先程ね平成 26 年度はもう 4 歳児募集を停止してということは今の高石幼稚園と同じ状態になると思うんですけども、高石幼稚園も 5 歳児だけの保育というので子どもの育ちに影響があるということで今毎月他園へ総務課の方に車で送って頂いたりしてるんですけども、そういうことをまた羽衣幼稚園になる訳ですよ。それをやっぱりするというよりも 26 年度の募集を全部しないとかっていう 26 年度 4 歳児募集はやめて 5 歳児を羽衣幼稚園に残すんですよ、そしたらやっぱり。そうお考えなんですかね。

(北口次長)

今のところはですね、高石幼稚園の廃園したスケジュールといいますか方法と同じようなことで考えてますけども、今残られる 4 歳児の方 5 歳児になって羽衣幼稚園に残られるか他園に転園されるかというのは、通園区域の見直しも考えてございますので、それはまあ保護者のお考えの中で対応と考えてございますけども、無理矢理全部北幼稚

園に持っていくとか、そういうことは考えてないんで。

(中谷委員)

なんか今年 1 年高石幼稚園がどんな風になるかっていうのも分らないんです。それで交流して今いる 8 人の子どもを最大限育てたいということではしてるんですけども、やっぱり自分の園で生活ができないっていうのは、やっぱり特別な状況だと思うんですね。その特別な状況で子どもを育てるっていうところ今先生達みんなやってるんですけども、そういうのって最大限やってますけれども成長っていう意味ではね自分の園にいて自然に 4 歳と 5 歳と交流して育つべきものがどれだけ補えるのかなという面もあると思うんです。それは高石幼稚園が今年 1 年どんな風になったかっていうので判断することも必要だと思うんですけども。やっぱり 4 歳、5 歳で育ちあうっていう風に保護者にも説明して入園して頂いてるということではね多分 5 歳しかいない状況っていうのはやっぱり納得できないところもあるんじゃないかなって保護者の方にもね、そう思いますので、高石幼稚園でできたから羽衣幼稚園もそうしますっていうのではなくてやっぱりまたそういうところを考えて頂けたらなあと思うんですけども。

(中西委員)

すいません、ちょっといいですか。例えば羽衣幼稚園が閉園されることになったとして最終の園児達がまあじゃあ、それだったらもう北へ行きますという方、他へ行きますという方もいらして、まあ残る方もいらっしゃる場合、残られた方がほん数名、もう数える程だった場合とかがってどうするんですか。それでも羽衣幼稚園として保育されるんですかね。

(北口次長)

高石幼稚園でも同じような議論がありまして、その当時 11 名いらっしゃったと思うんですけども、二人、三人になったらどうするんやというような意見も出たんですが、その辺は高石幼稚園の場合では保護者の方々のご意志にお任せするということでしたので、たとえ二人、三人になっても教育的な配慮っていうことで我々も協力しながらなんとか 5 歳児少ない中でもやっていくと申し上げてましたので。今の時点ではまだ羽衣幼稚園をどうするかっていうところまでは決まっておりませんが、先程中谷園長の方から意見がございましたように、いろんな方策があると思いますので、検討してまいりたいという風に考えてございます。

(大方委員長)

今年の様子を見ながら、果たしてそれが教育的なのか、もう本当にむしろ引っ越してしまうという方がいいっていうこともあるかもしれない。そこら辺は考え方ですよ。

(大方委員長)

よろしいですか。はい、どうぞ。

(西條委員)

これも確認なんですけども、こういう減らしていく中でいわゆる先生方の方は大丈夫というか過員にならないような形のんはいけるのかなというところへの確認だけ。減らしていく中で年度的なところへので先生が過員になって困るとかそういうことはもう当然ないという計算のもとでいけるということで考えさせてもろてよろしいですね。

(北口次長)

今現在も正職員が不足してますので、その分臨職等で補わさせて頂く状況ですので、その辺は大丈夫と。

(大方委員長)

正職は正職やから、むしろなくなったら臨職の方の方が。ただまあ子どもが増えるんやったらその必要性もない。クラス増えて3歳も増えたら、また預かりもやればまた必要性が出てくる。分散してるのが良い意味で集約して公立らしくベテランがそこに集まってくるっていう形であれば、より市民にアピールできるので、何かをするときには効果が見えるような形にして頂くと。公立幼稚園としてもやっぱり今ちょっとずつなんか分散されてそこに臨時の人が沢山いると、本当にリーダーになってる人が正職で頑張ってるんですけど実際には臨職さんが多いと。公立の良さがやっぱり出せないところもやっぱりあると思うんで、その辺ぐーっと集まってくることで、本来のベテランの集まりでいい保育をし、経験してきたことが活かせるようになれば、それは大きなスクラップじゃなくて正しい質の向上になります。そこをちょっと目指して行って頂けたらいいかなと思います。本当に高石がモデルになって欲しいですね。どうしても今公立もどこももう殆ど臨職さんで、正職は殆ど採らない。採っても本当に若干の補充、最低限の補充なので実際担任もってらっしゃっても臨時の方で正職じゃないっていうケースの方がどこの市町村でも多いので、本当の公立の意味がやっぱりなくなってしまっているから、そこは高石が正職でやってるんやというモデルになって公立のあるべき姿をやっぱり出して頂くとね。数は少なくても本当に大きな意味が出てくると思います。是非そちらを目指して頂きたいなと思います。特に支援を要する子どもさんとか、ますます公立小学校とかの支援教育の連続性ということを考えてとやっぱりそこが拠点になっていくような形になると。数だけじゃなくて今度は拠点になっていくと。民間でできないことをそこで特にやっていくんやと。で、公立小学校にやっぱり良い意味で継続

していくという連携がとれたら、何のために適正配置、近くって言ってきたのをそこはうまく連続するためのもんで隣にあれば良ってもものじゃなかった筈なので、そこは是非中身を見直して頂けたらなど。特に無ければ、これは今後また教育委員会、園長会、保護者の方への説明、まあ議会が先だと思えますけど、そういう手続きでなされていくという風に私達は理解してもよろしいですか。その辺保護者の方もご心配になると思うので、今後どう進んでいくか、まあ議会から先か教育委員会の議論があるか、園長会に言ってそれから保護者の方はその後決定した後になっていくんだと思うんです。その辺ちょっとおいて頂くと保護者も園長先生もやや安心で、ここで決まってみなすみませんでしたって言ったら二人の重荷が大き過ぎるので、ちょっと見通しを言って頂けたら。

(北口次長)

今予定しておりますスケジュールを大体申し上げますと、週明け月曜日なんですが、21日に教育委員会の定例会がございます、そちらの方に今回の再編についてということで議案を上げさせて頂いて、教育委員の中でご審議を頂いて方向性についてご判断ということでございます。その判断を頂いた後、条例の改正も必要となりますので、そういった事務手続きを経た上で、6月の7日から市議会定例会が始まりますので、一週間前の5月31日に議案が発送されるということですので、それまでに条例改正の方の事務手続きも済ました中で、議案が31日に発送されるということですので、その間市議会への報告ですとかそういったことのあるのかなという風に考えてますけども。議案が発送されると同時にプレスへの発表、それからその時点以降に保護者の方々に説明と園長会での説明等もそれまでにできたらいいなという風に考えてるんで、日程の方調整した上でまた実施してまいりたいという風に考えてございます。

(中谷委員)

すみません、このもう一度しつこいようですけど、この3園になって3年保育とかっていうのを是非考えて頂きたいんですけども、そういうことは、議案書にも考えていくとは書いてくださってたんですけども、3園になったらみんななどの職員もやっぱり3年保育、3園になったんやったら3年保育と前から言ってますし、保護者のニーズってそれこそ一番のニーズですので、この機会に3年保育、この羽衣幼稚園が4室で6室の北幼稚園が10ポイントでもすごく開くくらいやっぱり考えてくださってると思いますので、是非。

(北口次長)

3歳児保育、去年上げて頂いた中で、預かり保育も同じようなニーズがあったと記憶してございますけども、それにつきましては、昨年8月10日に教育委員会が決定し

た内容のとおり新システムに合わせてやっていくんやと。新システムが導入されるのが25年度当初っていう風にその当時は考えておりましたので、その時に計画策定と同時に3歳児保育や預かり保育の導入もやっていかないといけないだろうなという認識は持っておったんですけども、それはちょっと先の方になってしまいましたので、幼稚園だけじゃなしに保育所も含めた高石市だけじゃなしに高石市の近隣の他市も含めた地域、こういった区域地域の中での保育とか教育に対するニーズ、それをしっかり把握する必要もございましょうし、それに対して民間園も含めた提供体制とはどういう体制が必要なのかということが一番冒頭に申しましたけども、新システムというところの事業計画で定める必要が出てきますので、そういった計画を定めていく中で預かり保育、3歳児保育のあり方についても考えていきたいなという風に認識しております。

(大方委員長)

おそらくどうなるか分かりませんが新システム、迷走しております。税金が上がらない。増税とセットみたいになってます。一元化がいつの間にか一体化に変わってしまったし、なんかよく分らなくなってきた。ただいろんな意味で補助金はカットされてくるのは間違いないので、ただ公立が3つになったとしても、それを今ちらっとおっしゃってましたけど、拠点としてどこに力を入れる点かという特色を出していかないと同じようにはいかなくなる。ここは特に支援教育に力を入れるとかここはもう3歳児で試しにやってみるところやとかね、ここは保育内容をがんばるところやとか、なんか特色を出してそれが市民に見える形になっていく、そこにお金を使うという形でないとこれからは多分府からもお金が下りてこないという風になってくると。全部研修でもなんでももう全部そういう風になってきてて、それは多分平成27年ぐらいでもっと変わると思いますが、今からそういうビジョンを持っておかないと間に合わないのでは是非その辺もまた今後園長会も含めて教育委員会で議論していただけたらと思います。よろしいですか。わざわざご参集頂きましたけど他に特にご質問が無いようでしたら、私達は報告を受理したのものとして処理させて頂きたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。そしたらこれを持ちまして高石市立幼稚園再編等検討委員会を閉会にしたいと思います。ありがとうございました。